

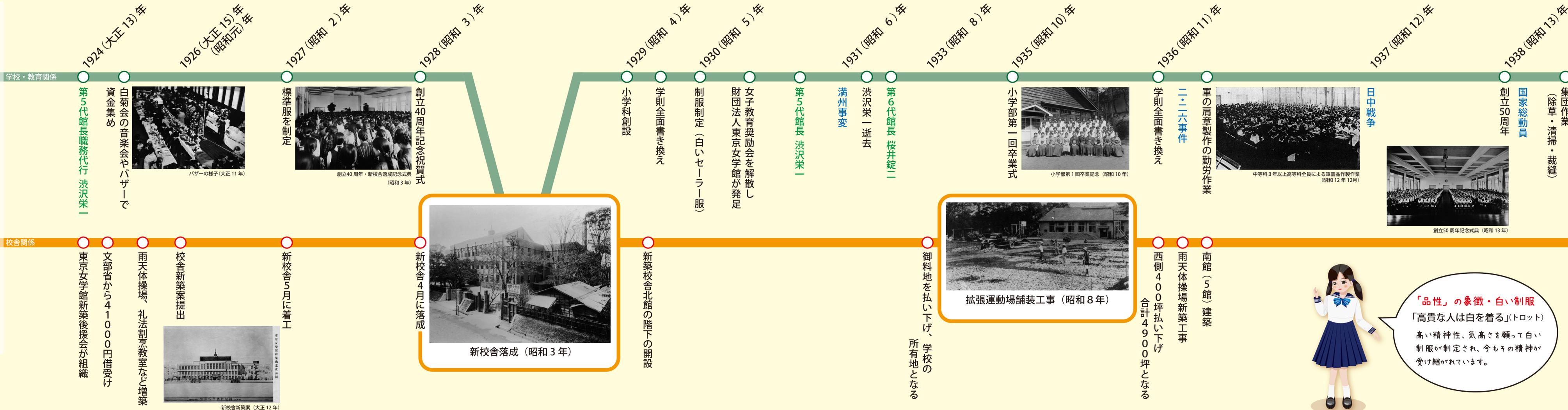
2. 広尾が不易の地に・羽沢時代(1) (初代校舎) 1924~1938

震災直後は休校を余儀なくされましたが、新聞広告等を見て虎ノ門の焼け跡に参集した生徒が221名にも上り、授業再開への意欲を駆り立てました。移転先の羽沢御料地にバラック校舎を建て、早々に授業を再開したのです。

その後、新築へ向けて資金調達の活動が開始、文部省からも震災応急施設費が貸し付けられ、新校舎は昭和3年4月に竣工しました。御料地の払下げも決定し、校地は東京女学館のものとなりました。

教育内容も大きく変化します。小学校が始まり、白いセーラー服が制服となり、財団法人東京女学館が発足しました。

青字：一般事項
緑字：歴代館長



「品性」の象徴・白い制服
「高貴な人は白を着る」(トロット)
高い精神性、気高さを願って白い制服が制定され、今もその精神が受け継がれています。